

企画展

表具の 不思議展

平成24年1月21日(土)～
2月26日(日)

日本の文化財を保存するための
表具の技術に焦点をあて、
「表具」、「紙」、「糊」、「裂」、「文化財の修理」、「装潢師とは」の
項目に分けて、表具に関わる不思議とともに
紹介していきます。



欠損部を埋める



装潢師の道具、刷毛と糊盆

●講演会

演題：「装潢師の仕事」

講師：岡 興造 氏 (国宝修理装潢師連盟理事長)

日時：平成24年1月21日(土) 11:00～12:00

場所：1階会議室

人数：50名 要申込・無料

●体験講座

「古文書修理体験講座」

～文化財レスキューの方法～

日時：平成24年2月11日(土) 13:30～15:30

講師：NPO文化財を守る会

場所：1階会議室

人数：20名 要申込・無料 (対象：高校生以上)



フェルケール博物館

(財団法人 清水港湾博物館)

〒424-0943 静岡市清水区港町2-8-11 TEL 054-352-8060



表具の不思議展

表具の役割は本紙を保護することと、絵や書が描かれた本紙を掛軸や卷子、屏風、襖、額などにして飾る目的があります。展覧会では主に掛軸・卷子など巻き物を例にとり[表具]、[紙]、[糊]、[裂]、[文化財の修理]、[装演師とは]の6つの項目に分けて、表具の技術と表具にまつわる不思議について、一般社団法人国宝修理装演師連盟の協力をいただきながら紹介していきます。

1. 表具の役割

作品を掛軸や巻物、屏風、額、画帖などに仕立てることを表装といい、仕立てられたものを表具といいます。表具は掛軸や卷子などにして作品を飾るとともに、巻いて収納することで絵や書を保護します。

2. 表具の特徴・古糊（ふるのり）を使う

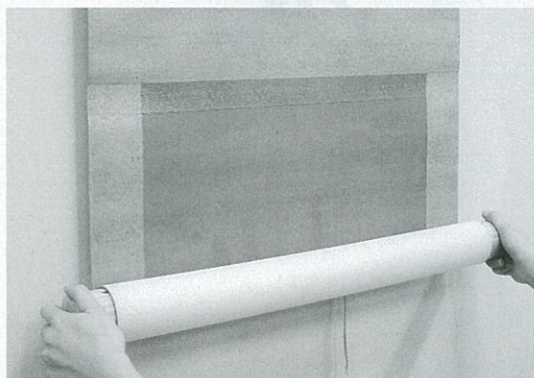
日本の表具の接着には、冬の大寒の頃にでんぶ糊を煮た糊を10年ほど寝かせた古糊を使います。10年寝かせたことにより新糊は粘着力が少なくなり、上手に調整して使うことによって、しなやかな表装を行うことができます。また、古糊ははがすことが容易にできますので、繰り返して修繕することができます。

3. 表具の技術・打ち刷毛

裏打ち紙を張り込んだ後に、裏面より打ち刷毛で打ちます。この方法により、紙の繊維どうしが強く圧着して繊維がからまり、2枚の紙がくっつきます。また、叩くことによりやわらかく仕上げることができます。

4. 修理の特徴・現状維持

現在の文化財の修理は元の状況を予想して戻すのではなく、現在まで伝わってきたオリジナル部分の“現状維持修理”を基本としています。修理では、オリジナルがもっているさまざまな情報を引き出し、現在まで伝わったままの状態でも文化財を後世に伝えていきます。



掛
軸



打
ち
刷
毛



古
糊
の
貯
蔵
風
景



工
房
の
よ
う
す

■開 館：9:30～16:30

■休館日：月曜日

■入館料：一般・大学生 400円／中・高生 300円／小学生 200円（20名以上の団体20%引き）小・中学生は土曜日無料

■主 催：財団法人 清水港湾博物館

■協 力：一般社団法人 国宝修理装演師連盟、NPO文化財を守る会

■後 援：静岡県教育委員会／静岡市教育委員会／朝日新聞静岡総局／毎日新聞静岡支局／NHK静岡放送局／読売新聞静岡支局／産経新聞静岡支局／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社

■協 賛：鈴与グループ

鈴与㈱・鈴与商事㈱・鈴与建設㈱・鈴与自動車運送㈱・SSKセールス㈱・鈴与エネルギー㈱・鈴与マテリアル㈱ 他グループ各社

企画展

表具の不思議展

入場割引券

本券を切り取って受付にお出し下さい。
2名様まで10%引きでご入場出来ます。